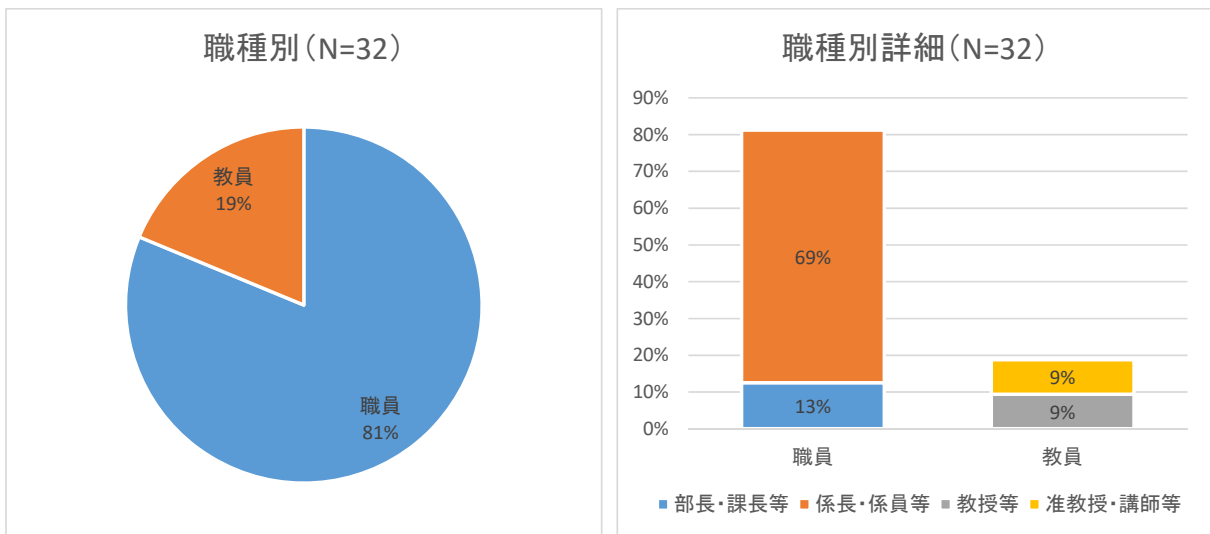


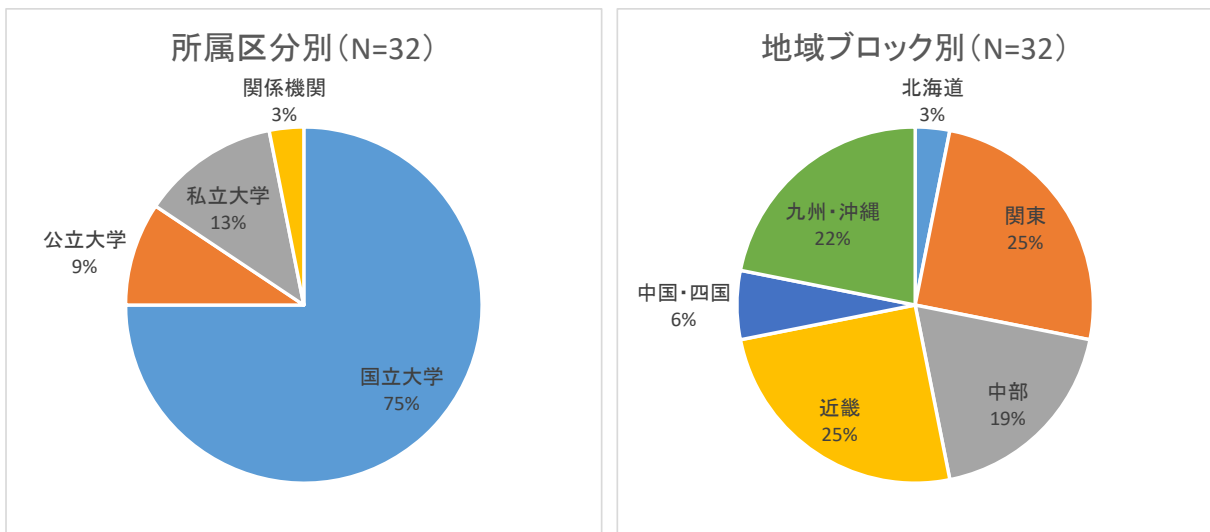
参加者について

分科会「評価初心者セッション」には、計 32 名（前年度比 3 名増）が参加しました。参加者の属性分析は、申し込み時に参加者からご提供いただいた所属や職種等の情報に基づき行いました。なお、「参加者」とは、国公立大学及び関係機関の「通常会員」であり、運営スタッフである「幹事」の 2 名を含んでいます。

職種別の参加比率では、職員が 81%（前年度比 9 ポイント減）、教員が 19% でした。また、職員の職層を「部長・課長等」及び「係長・係員等」、教員の職層を「教授等」及び「准教授・講師等」に分けて示すと、職員の係長・係員等が 69%（前年度比 14 ポイント減）と最も多く、次が職員の部長・課長等の 13%（前年度比 6 ポイント増）でした。

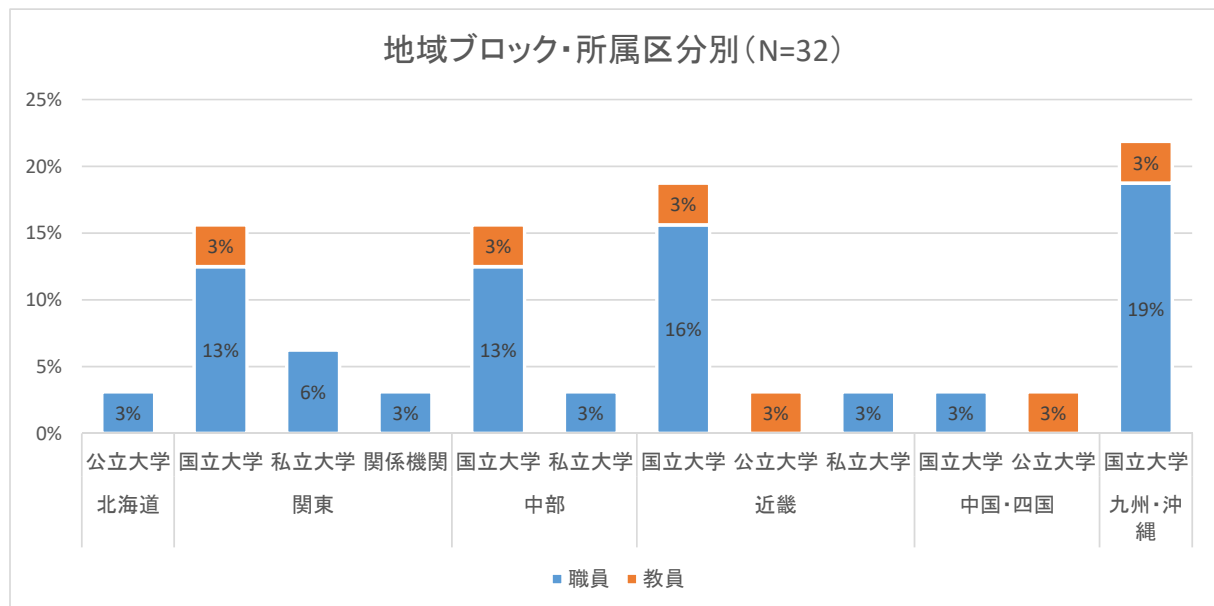


所属区分別では、国立大学が 75%（前年度比 13 ポイント増）を占めており、私立大学は 13%（4 ポイント減）でした。また、地域ブロック別では、関東・近畿地区で半数を占めており、次が九州・沖縄地区の 22% でした。



地域ブロック・所属区分別と職種別をあわせて確認すると、関東地区、中部地区、近畿地区及

び九州・沖縄地区における国立大学の教職員が15%以上でした。職員については、九州・沖縄地区の国立大学の19%が最も多く、次が近畿地区の国立大学の16%でした。



本分科会では、評価の実務経験がほとんど無い方（初心者）を対象としており、参加者の「評価との関わり」の内容を確認すると、採用されたばかりの方や人事異動により評価担当になられた職員が多く参加されていました。また、例年に比べて、評価担当になられた教員（教授等）と評価担当部署において管理的業務を担う職員（室長、室長補佐等）の参加が多く見られました。

（土橋 [神戸大]、関 [新潟大]、大野 [鳥取大]）